



## ～ 本とのふれあい、人とのふれあい ～

学校長 小木曾敏樹

『むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがすんでいました。ある日、おじいさんは山にしばかりに、おばあさんは川にせんたくをしに、いっしょに出かけました。二人が川につくと、川の上のほうから、大きな桃(もも)のようなものが、どんぶらこ、どんぶらことながれてきました。おばあさんはおじいさんにいいました。

「あれは、なんじゃ？」

おじいさんは、おばあさんにいいました。

「あれは、桃(もも)だろう。」

桃はそのまま下のほうへながれていきました。

これで、「桃(もも)だろう」のお話はおしまい。おやすみ。』



子どもが小さなころ、寝る前に布団に入って絵本を何冊も読み聞かせしてしていました。しかも毎日同じ本ばかり。布団に入って何冊も読んで聞かせていると、こっちのほうで眠くなってきて、子どもに「そちがう！」と指摘されたりしていました。もういい加減に寝るぞと言って本を片付けると、今度は「お話して～」と。短く終わらせ早く寝るために、桃太郎の話ではなく、「桃(もも)だろう」の話をしては、終わりにしていました。

読み聞かせは様々な効果が期待できる、とても大切な家庭教育だということは十分承知しながら、眠さには勝てず、こんな終わり方を度々していました。

15日(月)、16日(火)の2日間、PTA家庭教育委員会主催の読み聞かせが行われました。多くのお父さんお母さんにご協力いただきありがとうございました。また、今回、中央公民館を中心に活動していらっしゃる、「読み聞かせボランティア」の皆様にもご参加いただき、読み聞かせを行いました。子どもたちは真剣な眼差しで本を見つめ、お話に聞き入っていました。子どもたちはお話が好きで、お話に引き込まれたのはもちろんなのですが、私は、人に引き込まれたとも思っています。

読み聞かせをしてくれるお父さん、お母さん、地域の方の、その人柄、そのやさしさ、自分たちのために来てくださった思いなど、その人に引き込まれたという部分は確実にあるように思うのです。読み聞かせは、本との、そして人との、ふれあいのですね。



## 南小学校「コミュニティ・スクール」として・・・

中津川市は、本年度中に全小中学校を、コミュニティ・スクールにすることとしています。コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会制度といい、学校が地域と一体となって教育活動を行っていく、「地域とともにある学校づくり」のことで、地域の声や協力を積極的に学校運営に生かしたり、学校教育活動などに地域の力を活用したりして、特色ある学校づくりを進めていきます。

多くの地区では、小中学校で一つの学校運営協議会を立ち上げて、小中が連携して地域の学校としての特色ある学校づくりに取り組んでいきます。しかし、南小学校区は、東、西も同様に、第一中、第二中と中学校区が分かれてしまい、小中で一つの運営協議会を設置することが難しいため、この五校については、それぞれの学校で学校運営協議会を設置することとしました。南小学校では、元小中学校長の佐々木喜三夫様をコーディネーターとしてお願いし、区長会代表、PTA代表などからなる協議会を立ち上げてスタートします。

保護者の皆様、地域の皆様への周知を図るため、南小学校コミュニティ・スクールについてのリーフレットを配付する予定です。

このコミュニティ・スクール活動の一環として、また試行的実施として、今回の家庭教育委員会主催の読み聞かせにも、地域の読み聞かせボランティアの皆様にご協力いただきました。また、防災士会の皆様や社会福祉協議会の皆様など、いろいろな方々には既にご協力をいただいております。少しずつ、少しずつ、活動や活用の輪を広げながら、子どもたちにとって有用な仕組み、活動になるよう、工夫していきたいと思います。



読み聞かせをしてもらった子どもたちは、こんな表情でお話の世界に浸っていました。そして、読み聞かせをしたお父さん、お母さん、地域の皆さんはというと、子どもたちのその素直な反応や真剣さ、同じ時間空間を過ごした短くも濃い時間を、とっても楽しかったと言ってくださっていました。子どもたちにとっても、保護者にとっても、地域にとっても、学校にとっても、やらされるという負担感のない、お互いがやってよかった、楽しかったと言える活動にしていくことが、地域の学校として大切なことだと考えています。

